

【論文題目】 露出ファッションのジレンマ

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科 蔡天虹

【論文要旨】

肌や身体の線を過度に露出する露出ファッションを好む女性はしばしば、周りの人（特に男性）が身に着けているファッションより身体の方に注目するというジレンマに直面する。これが露出ファッションのジレンマである。

序章で本論文の目的や問題意識を指摘し、第二章では、露出ファッションの歴史と、露出ファッションを支える小道具について紹介する。歴史を遡るほど、女性の露出に関する規制は浮き彫りになる。前半では文化ごとの女性の身体に対する価値観、そして女性服の解放の過程を記し、それが、下着の変化やニプレスなどの発明と密接に関わっていることを論じる。第三章では、複数の女性に対して行ったインタビュー結果をもとに、露出ファッションを好む女性と好まない女性の違いや、その原因について考察している。また、同章第3節では、露出ファッションにおけるジレンマについて説明している。露出ファッションを着用する女性の視線と、それに対する周囲の視線には齟齬が生じており、衣服の役割に関する仮説を通じて上記のジレンマの存在を指摘する。露出ファッションに向ける視線についての理解を深めるため、男性を中心にインタビューを行った。第四章では、このインタビューの結果を分析し、視線の意味を明らかにした。

最後に、第五章で今回のテーマである露出ファッションの本質を考察し、結論を述べている。そして、「服の、先へ」というテーマに対し、「身体=下着=衣服」の境界が流動化する露出ファッションの可能性を主張して、本書を終えている。

【目次】

第一章 序章

- 1.1 問題の背景と目的
- 1.2 定義
- 1.3 先行研究
- 1.4 本論文の方法と視座
- 1.5 本論文の構成

第二章 露出ファッション

- 2.1 露出ファッションの歴史
- 2.2 露出ファッションの小道具

第三章 女性へのインタビューの分析

- 3.1 露出をする理由、しない理由
- 3.2 ファッションに対する意識と露出
- 3.3 露出ファッションのジレンマ

第四章 男性の視線

第五章 考察と結論

付録 インタビューの質問事項